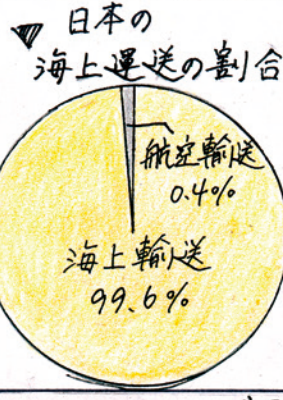


# 桜陽新聞

1年C組28番  
橋本凜花

## 日本と世界の海運の現状

四面を海に囲まれた日本では、海運産業が不可欠であるといえる。

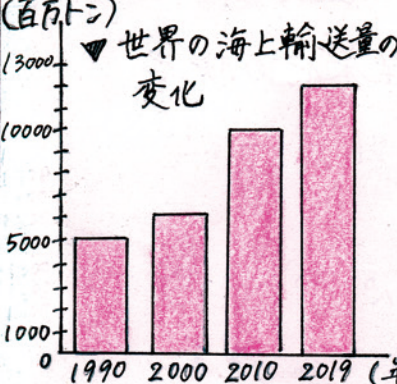


このグラフからも分かる通り、日本の輸出入のほぼ100%を海上運送に頼っている。

### 海運は資源依存と関係している!

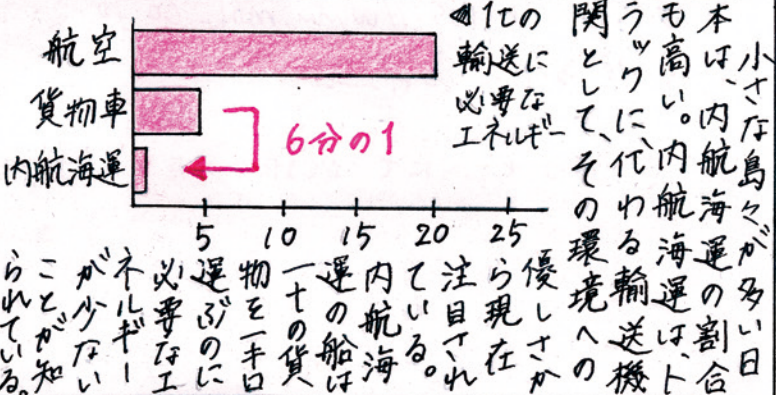
日本はエネルギー資源の多くを輸入に依存している。財務省貿易統制によらず、その依存度は鉄鋼石、石灰100%、衣類98%、大豆94%など。

世界の海上輸送量は増加を続けており、世界的にも海運の発展が不可欠であることが読み取れる。



モーダルシフトとは、トラックによる輸送を内航海運や鉄道に転換すること。現在、環境への効果が期待されている。

**モーダルシフト**  
内航海運への期待



**(質問①)** 外航船舶から排出される二酸化炭素は全世界の約2%となっていて、今後排出削減を要するとのことですが、実際の程度まで削減が可能だと思いますか。

**(回答)** 当社は温暖化ガス削減目標として、商船三井グループ環境ビジョン2050を定めています。

- ① 二〇三〇年に持続可能なネットゼロCO<sub>2</sub>排出量を達成します。
- ② 二〇五〇年に船からのCO<sub>2</sub>排出量を二〇二〇年比50%削減します。
- ③ 今世紀中のできる限り早期にネットゼロCO<sub>2</sub>排出量を達成します。

**商船三井の方にインタビュー**

今回、海運と環境との関わりを調べたいので、商船三井の中村夏帆さん(環境戦略・サステナビリティ推進チーム)にお話を伺った。

**(質問②)** 解体された船がよりリサイクルされるようになるには、今後新たに作られる船に必要となることは何だと思えますか。

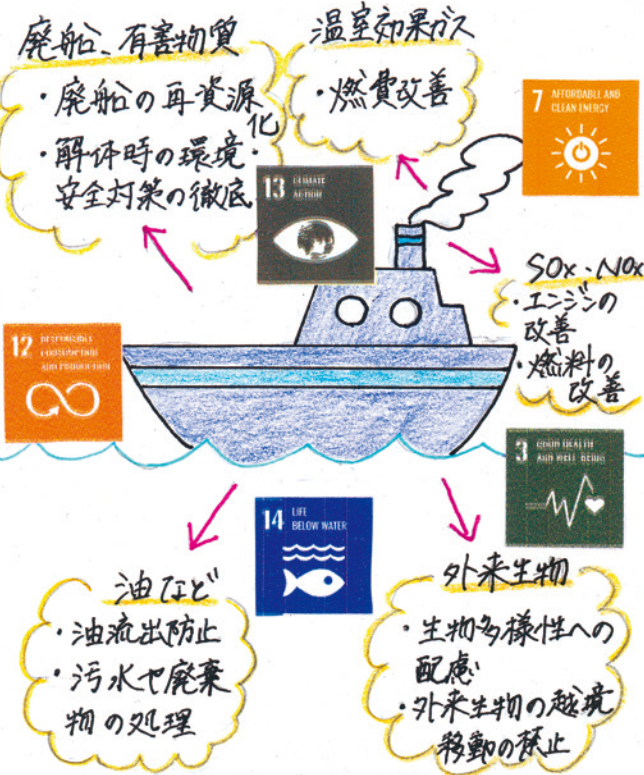
**(回答)** 当社の船を解体する際には環境に配慮したシップリサイクル条約に適合しているリサイクルヤードを選定の上、適切にリサイクルしていきます。また船本体以外にモーターやエンジンなど、自走車運搬船で車両を国産するなどの資材についてもリサイクルを行っています。

# 環境への課題

モーダルシフトという取り組むが期待されてはいるが、海運は環境に優しい輸送機関であるといえる。しかし、その一方で、世界の海上輸送量の増加のペースは、海運の増加を統制している。今後、増加を統制していけば、二酸化炭素排出量も増え、地球温暖化の深刻化にもつながりかねない。

現在世界で問題となっているバラスト水問題は、固定させるための船舶の海水のことである。このバラスト水が遠方の地域に運ばれることで、生物がその地域で繁殖し、生態系を乱すことがある。これをバラスト水問題である。

バラスト水とは？



## 海運の環境問題とSDGs

海運による様々な環境負荷を認識し、それらの対策を小さくするとともに、省エネ運航の改善や技術革新に取り組み、これらを通じて海運業界全体で持続可能な開発目標へSDGsに貢献している。

## バラスト水 排出基準

生物種	排出基準
動物プランクトン	10個/m <sup>3</sup> 未満
植物プランクトン	10個/ml未満
大腸菌	100cfu/100ml未満

国際海事機関によると、一年間で五十億トンのバラスト水が排出されているという。

## 環境

### エミッションフリー事業

商船三井の方にインタビューをしてお話を伺ったが、その他にも環境保全のための様々な取り組みを行っているという。環境・エミッションフリー事業について調べた。

洋上風力発電設備設置事業への出資  
 ↓二〇二七年三月に、洋上風力発電設備設置船五隻を保有するSeaLink社に出資。再生可能エネルギーの拡大への第一歩となる。

ウィンドチャレンジャー  
 ↓ウィンドチャレンジャー計画に参加し、風圧を利用した船の研究を実施した。風力エネルギーを最大限に取りこむことにより、船舶の消費燃料削減と二酸化炭素削減が期待される。二〇二二年の運航開始を目指しているという。

# 編集後記

今回、海運についての記事を書くにあたり、環境と海運をテーマに調査を行った。まず、海運がその環境への優しさから近年注目されておられるという点から、広がりつつあることを知った。具体的には数値を見ることで、海運が世界でも重要な役割を果たしていることがわかった。しかし、現状では環境への負荷を減らす取り組みが、行われていない。その具体的な取組内容を知ることができた。船舶のリサイクルや再生可能エネルギーの使用など、方法は様々であるが、いずれの場合も、いかに実現できるかが鍵である。しかし、持続可能な社会の実現に向け、海運と環境のつながりを考えていく必要がある。海運とは、普段は身近に感じることが少ないが、産業ではあるが、私たちが環境への理解を深めることが求められている。